

科目名	教育相談		担当教員	後藤 綾文	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3EPG107
期待される学修成果	子ども理解 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	臨床心理士、公認心理師				
実務経験を生かした授業内容	スクールカウンセラー、精神科病院などでの勤務の経験を活かし、不適応を起こしやすい子ども達への支援について講義する。				
到達目標及びテーマ	教育相談の意義や理論、基礎的知識、心理的に不適応を起こしやすい子ども達についての理解を深め、適切な支援をするための基礎知識、理論、技法の習得をテーマとする。授業の到達目標は以下の3点である。(1) 教育相談の意義や理論を正しく理解している、(2) 子どもの不適応やそのサインに気づき、支援するための必要なカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している、(3) 教育相談の具体的な取り組みについて、子どもの発達段階、校内体制、学内外の連携を含め具体的に検討することができる。				
授業の概要	学校では、不登校、いじめ、発達障がい、自傷、摂食障害など、特別な配慮や支援を必要とする子ども達が少なくない。本講義では、学校現場でそうした子ども達を支えるための教育相談システム、子ども達の心身の状態についての理解、適切な支援の仕方、学級集団や保護者へのアプローチの仕方などを概説する。				

授業計画	
第1回	授業のオリエンテーションと心理療法の流れ
第2回	カウンセリング・マインドと教育相談の意義
第3回	カウンセリング・マインドとカウンセリングの理論①（無条件の感情受容）
第4回	カウンセリング・マインドとカウンセリングの理論②（共感的理解）
第5回	カウンセリング・マインドとカウンセリングの理論③（守秘義務と校内連携）
第6回	カウンセリング・マインドとカウンセリング技法
第7回	保護者とのカウンセリングのロールプレイ
第8回	園・校内の教育相談システムとケース会議のすすめ方
第9回	園・校内の教育相談システムとスクールカウンセラー・専門機関との連携
第10回	幼児期から児童期の自我発達と教育相談の意義
第11回	児童期から青年期の自我発達と教育相談の意義
第12回	不登校の事例から学ぶ自我発達の理解と支援
第13回	発達障がいの事例から学ぶ理解と支援
第14回	いじめの事例から学ぶ自我発達の理解と支援
第15回	学校における緊急危機事案についての理解と支援

事前学修	2時間	前回の授業の最後に、次回の内容を伝え、参考図書等の該当部分について指摘しておくので、必ず読んでおくこと。
事後学修	2時間	毎回の授業後に、疑問に感じたことや考えたことなどを自分の意見としてまとめること。
フィードバックの方法	課題、試験に対して希望があれば個別に口頭でのフィードバックの機会を設ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	知識ならびに理解力
上記以外の試験・平常点評価	20%	毎回の小レポートでの探究力
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	藤田哲也監修（2017）絶対役立つ教育相談――学校現場の今に向き合う―― ミネルヴァ書房 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領 生徒指導提要(改訂版)			

科目名	教育相談			担当教員	成田 絵史	
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED3EPG107	
期待される学修成果	子ども理解 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	臨床心理士・公認心理師					
実務経験を生かした授業内容	臨床心理士・公認心理師としての勤務の経験を活かし、不適応を起こしやすい子ども達への支援について講義する。					
到達目標及びテーマ	心理的に不適応を起こしやすい子ども達について理解を深め、それぞれの子どもに対して適切な支援ができるようになるための基礎知識、理論や技法の習得を目標とする。					
授業の概要	学校では、不登校、いじめ、発達障がい、自傷、摂食障害など、特別な配慮や支援を必要とする子ども達が少なくない。本講義では、学校現場でそうした子ども達を支えるための教育相談システム、子ども達の心身の状態についての理解、適切な支援の仕方、学級集団や保護者へのアプローチの仕方などを概説する。					

授業計画	
第1回	オリエンテーション：教育相談について
第2回	アセスメント 幼児期から青年期の心の発達と課題
第3回	カウンセリング・マインドと教育相談
第4回	カウンセリングに関する基礎知識
第5回	メンタルヘルスについて～ストレスマネジメント、リラクゼーションに注目して～
第6回	教育相談システムと園・校内における連携、スクールカウンセラー、専門機関との連携
第7回	様々な心理療法と心理検査
第8回	発達障がいについての理解と支援
第9回	精神疾患についての理解と支援
第10回	不登校についての理解と支援
第11回	いじめについての理解と支援
第12回	さまざまな課題を抱えた子どもへの理解と支援～幼児期から児童期～
第13回	さまざまな課題を抱えた子どもへの理解と支援～児童期から青年期～
第14回	心の危機についての理解と支援
第15回	まとめ

事前学修	2時間	次回の講義内容をめぐって知っていること、イメージをまとめ、書籍やインターネットなどを用いて調べる。また、講義前に資料がある場合はそれを熟読する。
事後学修	2時間	講義の内容をふりかえり、重要点や自分の考えをまとめる。自分が関心を持ったキーワードなどを調べて理解を広げる。
フィードバックの方法	講義内容や小課題（毎回講義終了時に提出するふりかえりシート等）について、希望があればフィードバックの機会を設ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	知識ならびに理解力
上記以外の試験・平常点評価	20%	講義内に課す小課題への取り組み
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業ではQRコード等を用いて感想、意見を出してもらうため、スマートフォン等を持参する。また授業内に行うワーク（個別・グループ）について積極的に取り組み、特にグループワークにおいては活発な議論を期待する。 ・試験は大学の定期試験実施期間に行う（16回目に該当するが、日時等変更の可能性はある）。試験に際して大学の履修要覧等の記載事項を守り、欠席回数が全授業数の3分の1を超える、試験当日の試験開始20分以上の遅刻は受験を認めない。 	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
毎回、講義資料を配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	藤田哲也（2017）絶対役立つ教育相談——学校現場の今に向き合う—— ミネルヴァ書房 小・中・高等学校学習指導要領 幼稚園教育要領 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領			